



## プロフェッショナル 仕事の流儀 どんな絶望にも、光はある 自殺対策NPO代表 佐藤久男

放送日：2016年5月9日 放送時間：48分

対象校種 中学校 高校

対象教科 道徳 総合

### この番組の良さ

#### ● 自殺者を半減させた男 失敗体験は任せろ

本番組は、自殺対策NPO代表の佐藤久男さんの活躍を描いたものです。命の相談員である佐藤さんは、秋田県の小さな相談所から、自殺者を減らすための組織的で先進的なネットワーク(秋田モデル)を作り上げ、長年自殺率全国ワースト1であった秋田県の自殺率を半減させました。

佐藤さんのもとには、経済的な問題や精神的な病気などで自殺を考える人が駆け込んできます。佐藤さん自身も失敗体験から自殺を考えた一人ですが、その体験を活かし、一人一人に丁寧に向き合います。どんな状況でも決して諦めない佐藤さんの姿から、「自殺を考える人を何とか救いたい」という強く熱い思いが伝わってきます。

#### ● 佐藤さんの仕事に対する姿勢から考える

「人がやらないことでも、やれると信じて懸命に頑張り通す」という佐藤さんの言葉から、仕事に対する信念を感じとることができます。熱意をもって仕事にむかう姿勢に、キャリア教育としての活用も期待されます。

### 番組活用のポイント

#### ● 「秋田モデル」を作り出す熱意と佐藤さんの 思いから学ぶ

自殺を考えるまでに追い込まれる原因の多くは、経済的な困難、人間関係、精神的な病気などです。どんなに複雑に問題が絡み合っていたとしても、佐藤さんは自らの教訓である“暗闇に一筋の光を探す”を念頭に置いて、「たとえ1%でも希望があれば、人は生きていける」と信じて取り組んでいます。

佐藤さんは、たくさんの専門家(弁護士、司法書士、臨床心理士など)と連携し、問題解決に向けて組織的に取り組んでいこうとネットワークを作り上げてきました。それにとどまらず、自治体や大学、メディアなど多方面に連携を広げ、さまざまな問題への対応を可能にしています。「ここに来たら、あなたを死なせない」という佐藤さんの強い信念が、自殺対策としての「秋田モデル」に盛り込まれています。そのような佐藤さんのNPO法人代表としての姿勢から、仕事への熱意を感じ取り、働くことについての考えを深めることができます。

#### ● 「どんな絶望にも、光を見出せる力」について考える

事業に失敗し、家族に借金を残したくないなど、追い詰められた人をどう救うか?佐藤さんは、暗闇にいる人と向き合うとき大切にすることは“鏡に徹すること”だと言います。あえてアドバイスはせず、「苦しみをただひたすら聞くことが人間の光になる」と信じ、聞き役に徹します。「絶望と希望は紙一重、だからこそどんな絶望にも光はある」と、突破口を見出していきます。

佐藤さん自身も、会社が倒産し自己破産したことで、従業員への罪悪感や家族への思いから、追い詰められ、自殺を考えた時期があります。そして、同じ経営者仲間である友人が自殺するなど、失意のどん底を味わいます。しかしその死がきっかけとなり、秋田県の自殺対策に向けて一人で立ち上がりました。

相談者の心の深い苦しみに触れ、心が悲鳴を上げる時もあると言いますが、そういう時こそ自分を奮い立たせ、苦しみをひたすら聞くことに努めます。

生きることの意味を考え、挫折から立ち直るヒントを与えてくれる教材として、活用の幅が広がります。



執筆者  
大分県立津久見高等学校  
指導教諭 森 浩三